

東日本大震災

平成29年3月11日で、未曾有の大津波が発生してから6年を迎え、7回忌です。全国からの献身的な温かい支援を受け、被災者の心の支えとなり、どれ程か勇気づけられました。

苦しみと悲しさの中、被災者の涙ぐましい努力により復旧・復興してきており、合意形成によるデザイン性の高い住宅団地の建設、コミュニティぐるみの集団移転等を目指し、かなり復興は進みましたが、人手不足や資材不足が重なり、土地区画整理や、災害公営住宅等の建設に時間がかかっていること等から、避難した人が元の土地に戻らないとか、人口の減少が起こったり、昔の状態に戻ることは、なかなか難しいようです。

6年経った現在でも、仮設住宅の生活を余儀なくされ、居住している人も居られます。

東日本大震災被害者の状況

死者数 () は行方不明者数

宮城県	9,540人 (1,232人)
岩手県	4,673人 (1,123人)
福島県	1,613人 (197人)
全国	15,893人 (2,556人)

【平成29年3月1日付河北新報】

全国に報道され有名になったので、皆さんも良くご存知のとおりですが、宮城県石巻市立大川小学校の現地に行ってお参りしたので、石巻市立大川小学校を紹介したいと思います。

ボランティアでされている佐藤敏郎先生に詳しく説明をして頂きました。

冥福を祈り献花をして参りました。

いしのまき 石巻市の説明

石巻市は、仙台から東に約50kmの地点にあり、せんせきせん仙石線の終着駅、終点の駅で仙台駅からは、約1時間です。

北上川の河口に位置し伊達藩の統治下に金華山沖漁場を背景に漁業として栄えた町、現在も金華山沖世界三大漁場の一つとして水産物資源の宝庫となっており、近年新産業都市の指定を受けてから石巻工業港が開港して工業都市として、発展を遂げてきており、宮城県第2の都市です。

また、旧北上川沿いにマンガランド「石ノ森萬画館」が有名です。



日和山公園から見た、旧北上川の状況

津波は、川沿いに遡上、海岸部および両サイドに多大の被害をもたらした。
TVで良く放映された場所、避難した場所



石ノ森萬画館

仙石線の説明

仙石線は、仙台と石巻を結ぶ太平洋の海岸沿いに走っているJR東日本の線です。

途中に、^{にがたけ}苦竹駅（仙台市宮城野区）「仙台駐屯地」、^{やもと}矢本駅（東松島市）「航空自衛隊松島基地」があります。

仙石線も津波による被害を受け、海岸沿いの^{のびる}野蒜駅を500m程、^{とうな}東名駅を600m程、内陸の高台に移設し4年2か月ぶり、平成27年5月30日に全線が繋がり開通、便利になりましたが、全長が約1.2km短くなったそうです。

津波で壊された、旧野蒜駅のホームは、保存されており、旧野蒜駅は「東松島市災害復興伝承館」となり、当時の写真、ビデオ、模型が展示され、多くの見学者が来ていました。



津波で破壊されたホーム



旧野蒜駅：東松島市災害復興伝承館

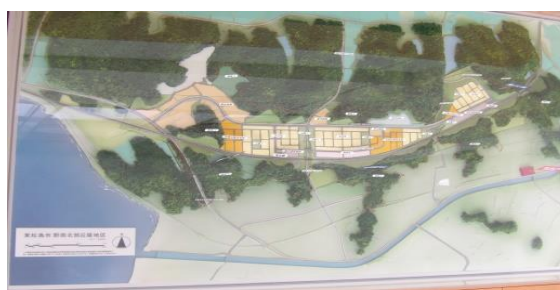


旧野蒜駅の上空を空自ブルーインパルスが飛行訓練していました。

災害復興伝承館には、津波の被害の状況及び高台移転の復興計画が展示されています。



仙石線の被害（パネル）



第1回目の野蒜北部丘陵地区復興整理事業の市街地区予想図

（模 型）

野蒜海岸の、防潮堤の建設の状況

野蒜海岸は、海水浴で賑わったところです。防潮堤が建設中です。



野蒜海岸の防潮堤の建設状況

野蒜海岸に有った住宅、かんぼの宿、旅館、奥松島運動公園は、跡形もなく全て流され、現在は、居住禁止で住む事が出来ません、農地として使用するようです。



家屋が全く無くなった野蒜海岸荒地

新しい野蒜駅周辺の復興

旧野蒜駅から約5～600m高台に移転し、山を削って造成して1300世帯の住宅が造成され、団地の中には、野蒜駅（東松島市）と東名駅（東松島市）2個の駅が有り、駅を中心に街が力強く建設され、復興が着実に進んでいます。

主な施設は、1戸建て住宅約300区画（土地は無償で貸与し、上物のみ準備する。）、災害公営住宅が170戸（平成29年度完成予定）、宮野森小学校は（本年1月開校）、野蒜市民センター・奥松島観光物産交流センター（運営中）、将来は、病院、消防署、交番、スーパー等が出来、安全で快適な日本一の街造りを目指しています。



駅の正面にある、野蒜ヶ丘団地案内の看板



新野蒜駅



新東名駅



新野蒜駅（野蒜ヶ丘団地）から太平洋（野蒜海岸）を望む、途中に旧野蒜駅が見える



一戸建ての住宅の建設状況、まだ空き地が目立つ



1月に開校した宮野森小学校



体育館



野蒜市民センター及び奥松島観光物産交流センター



建設中の「空の公園」(5個のうちの1つ)

大川小学校の悲劇

地震発生：14時46分（平成23年3月11日）
児童避難開始：15時25分（地震発生から39分経過）
津波到達：15時37分（地震発生から51分経過）

概要

児童108人のうち74人（68人死亡、行方不明6人）、教職員13人のうち10人（9人死亡、行方不明1人）が一瞬にして命を落としました。

地震が発生し、全員、整齊と校庭に集合し、先生方は点呼も取り、子供たちは待機していました。

一部の親達は、車で駆けつけて、我が子を連れ出し児童の数は80名に減っていました。スクールバスで避難する意見もあったが、優先順位が決められず、スクールバスの利用は有りませんでした。バスの運転手さんもその時、犠牲に成ってしまったそうです。

大川小学校は、津波の際、市の避難場所に指定されていました。

小学校は、鉄筋コンクリート2階建てでしたが、屋上が無かったことは、選択肢を狭めました、西側脇に有る裏山に逃げるべきだという声も有ったが、北上川に架かる、新北上大橋の堤防道路の高台に向かって避難しました。

先生方は、当日は、寒い日で、雪も降っていた、「裏山は、倒木や積雪があり余震もある。怪我をしたら誰が責任を取る。」教頭先生以下、意見が続出、どこに避難すればいいのか、出張で校長先生不在の中、結論が出ないまま、組織的な行動もなく、津波襲来までの約50分、時間だけが過ぎました。「先生！山に逃げっぺ」と言った生徒もいましたが、救えた命を救えませんでした。

「子供たちは、学校の管理下にあり先生の判断を仰ぐしかなかった。なぜ裏山に逃がしてくれなかったのでしょうか。」親たちは、思う。

15時25分、先生たちは、引率して2個班に分かれ1列になって避難し始めました。そして、その時15時37分、新北上大橋の堤防道路付近に10mを超す山のような津波が北上川を遡上し、轟音を響かせながら、迫ってきました。堤防道路付近に避難しようとした子供たちを一気に飲み込んだのです。

列の最後尾を避難していた先生1人と子供たち数名は、裏山によじ登り助かりました



避難しようとした、北上川の高台から大川小学校を望む

小学校の手前の平地は、震災時は、民家が密集し、この場所からは、学校は見えなかったそうです。その民家の路地を北上川に向かって、避難しました。

左側の道路沿いには、郵便局、駐在所、民家がずっと続いていました。



大川小学校



左側低学年用教室、右側高学年用教室



津波で破壊された渡り廊下



裏山の入り口（津波が白い線まで到達）



新北上大橋から見た避難しようとした高台



新北上大橋から見た北上川、津波が遡上してきた



説明して下さった佐藤敏郎先生

津波遺構

大川小学校の建物を残すと、子どものことを思い出して、辛いという保護者もおられ、一旦取り壊しに決まりかかりました。

その時に、避難時、先頭部分を避難していた生徒の一人が、その道は、行き止まりだと分かったので、引き返すため、バックしました。その直後津波が襲ったのです。その生徒は、後ろ向きだったので大波に背中をドンと押されて、山に押し上げられて奇跡的に助かったのです。生徒はこの地域周辺の地形を良く知っていました。

現在は、家屋が、津波で壊され、更地になっていますが、避難した経路は、民家が密集しており、狭い路地を避難したのです。

その生徒は、次のように訴えました。「思い出が一杯詰まる学校を僕は、残してほしい。」と、保護者もその意見を尊重し、津波の遺構として保存することが決まりました。

裁 判

東日本大震災で、児童74人教職員10人が死亡・行方不明になった石巻市立大川小学校をめぐる訴訟で、仙台地裁は、学校側の過失責任を認めて、児童23人の遺族に総額約14億3千万円支払うよう市と県に命じました。

石巻市長は、仙台地裁の判決を不服として、仙台高裁に控訴する方針を固めました。

「今回の判決で、死亡した先生方に責任を負わせることはつらい。しかも、大川小は、過去津波被害に遭っておらず津波浸水想定区域外で津波の避難場所にもなっていた。」と反論、村井嘉浩宮城県知事（防大第28期）も市側に同調しました。

自然災害時の避難処置と、学校や福祉施設等を運営している地方自治体・国の責任、今後どのように解決されて行くのでしょうか。

☆ 佐藤 敏郎先生の紹介

佐藤 敏郎先生は、当時女川の中学校の先生でした、大川小学校に通っていた6年生の最愛のお嬢様を、卒業を1週間前にして津波の犠牲で亡くされました。

「小さな命の意味を考える会」の代表をされています。

今回お忙し中わざわざ説明に来て下さいました。

皆さん、協力してあげて戴きたいと思います。

「小さな命の意味を考える会」は、大川小学校で起きたことについての検証、伝承、そして想いを多くの方と共有することを目的とした任意団体です。

本団体の活動を広めるため、みなさまからのご寄付（一口200円～）を受けております。ご寄付は、本冊子の印刷費や、講演に関して全国に講師を派遣する際の費用の補助などに活用させていただきます。

口座へのお振込みは、

りそな銀行 神楽坂支店 普 1649694

一般社団法人 Smart Survival Project 代表理事 西條剛央

(イッパンシャダンハウジン スマートサバイバープロジェクト

ダイヒョウリジ サイジョウタケオ)

仙台南平野の状況

仙台南平野は、仙台市の南側に広がる平野です。七北田川から荒浜地区（仙台市若林区）、^{ゆりあげ}関上地区（名取市）、仙台空港、^{あぶくまがわ}阿武隈川までの太平洋の海岸沿いの平地です。

太平洋に平行して、海岸線が伸びその海岸に津波が8 m～10mの高さで来襲し、家屋も畑も流されてしまいました。

仙台港から仙台空港に通じる道路の周辺は、津波に流され家屋や車や電柱など多量に発生した瓦礫は、現在は、完全に除去され、処理は終わっています。建物の基礎部分さえも撤去され、平地（更地）になっています。

現在、ここに、^{かさあ}嵩上げ道路を建設して、防波堤を兼ねた道路が建設されています。

また、海岸、波打ち際との間には、防災林を設け、内陸部には、嵩上げて巨大津波に耐えられるように対策が立てられています。

仙台空港～仙台方向に物流の中核として仙台東部道路（有料道路）や県道が走っています。



かさ上げ道路の展示説明

^{あらはま}荒浜地区（仙台市若林区）の状況

荒浜地区は、津波が集落を飲み込み建物は基礎を残して、ほぼ全て流出し、約600名の尊い命が奪われました。津波は、海岸線の約700mの場所に位置する荒浜小学校の2階床上約40cmにまで達し、児童・教職員、避難していた地域住民合わせて300人以上が校舎に取り残されましたが、ヘリコプターにより地震発生から、約27時間後の翌日までに全員が救出されました。

現在、校舎は、津波が発生した際の緊急一時避難場所となっています。

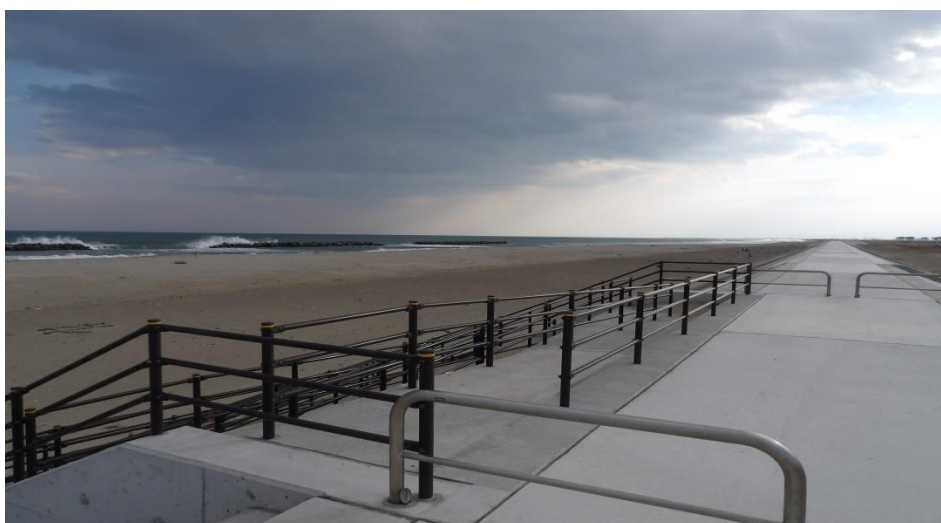
震災の脅威と教訓を後世に伝えるため、津波で流出した地区の住宅基礎群を含め、震災遺構として保存されるようです。



壁には 「ありがとう 荒浜小学校」



流出した住宅群と荒浜小学校（上部の白い建物）



荒浜地区から見た太平洋沿いの防潮堤



沿岸部の高さ10mの避難場所（避難の丘）



津波の到達地点を示す表示板

ゆりあげ

閑上地区（名取市）の状況

閑上地区は、漁業、農業を中心とした、小さな漁港のある街です。名取市の沿岸部に位置し名取川の河口に存在します。



閑上日和山

標高6.3mの人工の山、大正6年に漁師が気象・海上の様子を見る

ために建造された、社殿は、津波で流され、平成25年5月に再建された。

閑上地区も大きな被害を受けました。8mを超える高さの津波が襲来、死者964人の犠牲者を出しました。自衛隊もこの地域に出動救助活動をします。

名取市消防団 閑上地区分団長 樋口恵一氏の東日本大震災全国消防団研究報告会の講演から抜粋

「地元の消防団は、遺体捜索等も自衛隊の指揮下に入って徹底して実施しました。横一列に並んで堀の幅に一列に、1m間隔で前進する過酷な作業でした。一番深い場所は自衛隊の人が泳ぎながら捜索、頭の下がる思いでした。」

一緒に救助する自衛隊、昼夜を問わず、危険を厭わず、家族、遺族のことを思い、決死の救助活動をする自衛隊員達は、被災地の人たちに深い感銘を与え、尊敬の念を起こさせました。



種の慰霊碑・芽生えの塔

「種の慰霊碑」から発芽した「芽生えの塔」が上へ上へと伸びて行く様を表現していま

す。震災で犠牲になられた方々が、天に昇っていく姿を表現したものだそうです。

震災を克服し復興への決意を新たにする人々の姿を重ね合わせ、この地に豊かさが戻ることへの願いが込められています。

「芽生えの塔」の高さは、8.4m、この地の津波の高さに合わせています。

碑文「亡き人を悼み故郷を想う故郷を愛する御霊よ安らかに」

現在、閑上地区は、漁業が復旧し、新鮮な魚介類や農作物を売る朝市も復興して活発に活動しています。



買物客でいっぱいの復興した閑上朝市の状況

最後に六魂祭^{ろっこんさい}について

六魂祭は、東北の6県を代表する祭りを一堂に会して、大震災で亡くなられた方々の魂を慰めるために一年に一回、順番に開催されました。

六魂祭は、仙台市七夕まつり・すずめ踊り、盛岡市さんさ踊り、福島市わらじ祭り、秋田市竿灯まつり、青森市ねぶた祭りです。

第1回目は、H23.6仙台市で、第2回目以降盛岡市、福島市、山形市、秋田市、秋田市、の順に第6回目がH28.6青森市で行われました。

昨年で、6県を一巡したので新しく名前を「東北絆祭り」と変えて、続けて行くようです。今年は、6月10日(土)、11日(日)、仙台市で予定されています。

皆さん、東北を応援する意味で見に来て下さい。

技術不足で、動画で紹介できませんが、興味ある人は、「六魂祭」で検索して下さい。

また、東北は、温泉も素晴らしいです。被災地を支援するためにも、是非、足を運んで下さい。熊本県や大分県でも、地震で被害を受け、大変な状況におられますが、忘れ去られ、風化されることが、一番良くないと思います。

その地に行くことが大事だと思います。復興の一助となると思います。

現在ハード面での復興はかなり進んできたようですが、これからは、ソフト面のサポートが必要だと市の担当の方が、おっしゃっていました。

すなわち。販路確保、風評被害、孤独死の問題、不登校、子供の肥満(運動不足、学校の送り迎えもバス利用)等々だと言うことです。